

命の学習



活動場所	森林キャンプ村人工河川 自然の家「瀬の音ひろば」	自然の家にあるもの	アマゴ、竹串、炭（以上、有料） かまど、網、火ばさみ、小刀（切り出しナイフ）
所要時間	2時間程度	利用者で用意するもの	必要であれば着替え
人数	自然の家：40名 （一回でできる人数）	活動時の服装	帽子、ぬれてもよい靴、軍手（串をけずる際とアマゴを受け取る際に必要）

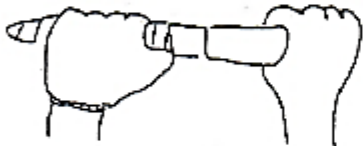
普段何気なく口にしている食物はすべて生命を持っています。私たちは生きるためにその命をいただきながら日々暮らしています。生き物は私たちのために命を与えてくれているとともに、私たちの口に入るまでにはいろいろな人のお世話があってようやく食べることができるといえます。また、食べ物を粗末にすることは、こうした命や人のお世話も無駄にしているわけです。アマゴがしっかりと焼けるように串を削り、生きているアマゴを自分の手でつかみ、串刺しにして命を奪い、食べるという過程を自ら体験することで、命の尊さ、いろいろな人への感謝について考える絶好の機会となります。

命の学習～竹ぐし作り～

小刀の使い方

① キャップをそーっととります。

▲ しまうときもゆくりと。



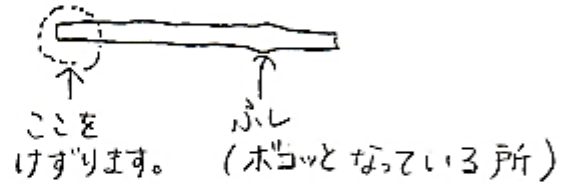
小刀を持つ手
↓
軍手なし
竹を持つ手
↓
軍手あり

② そえている(軍手のほう)手で
おすように外へけずります。

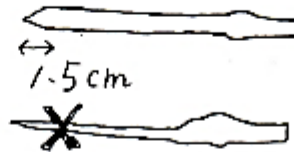


けずり方

① ふしから遠いほうを
けずります。



② 先をえんぴつの先のように
します。



▲ けずりすぎるとアマゴが
やけなくなってしまう。

とくに大切なこと

- ① 昔の人は道具を手作りしていました。
- ② 手をのばしたとき、友だちに当たらないきよりでけずりましょう。
- ③ 小刀のキャップをなくさないようにしましょう。
- ④ ゆび先をじょうずに使いながら道具を使いましょう。
- ⑤ 自分でけずった竹ぐしは自分が使うとはかぎりません。みんなのものをみんなできずります。きょうりよくして作りましょう。

1. 学習内容

めざすもの（評価）	関連教科	学び（単元）
・竹や小刀の特徴について知り、安全で適切な扱い方について身につけることができる。	図画工作	4年「使ってみよう ざいりょうと用具」

2. ポイント

ア) 活動前

- ・晴天時はつどいのひろばや実習棟で削ることができる。雨天時はプレイルームで行う。その際はブルーシートを敷き活動する。
- ・右利き用は200本、左利き用は20本ある。必要な本数を申し出ること。
- ・竹串は食堂前の冷蔵庫にある。団体名を確認し用意する。また事前にクラスの本数に分けて用意しておくことと活動をスムーズに始めることができる。

イ) 活動中

- ・刃物を扱うので、ふざけたり走り回ったりしないよう安全の指導と使い方の指導をすること。
- ・熱中してくると、子どもたち同士近づいていく。距離を取る指導をすること。
- ・鉛筆の先のようにになったら指導者方がクラス分の竹串を回収し、食堂横の冷蔵庫で保管しておく。
- ・軍手を着用しているか必ず確認する。

ウ) 活動後

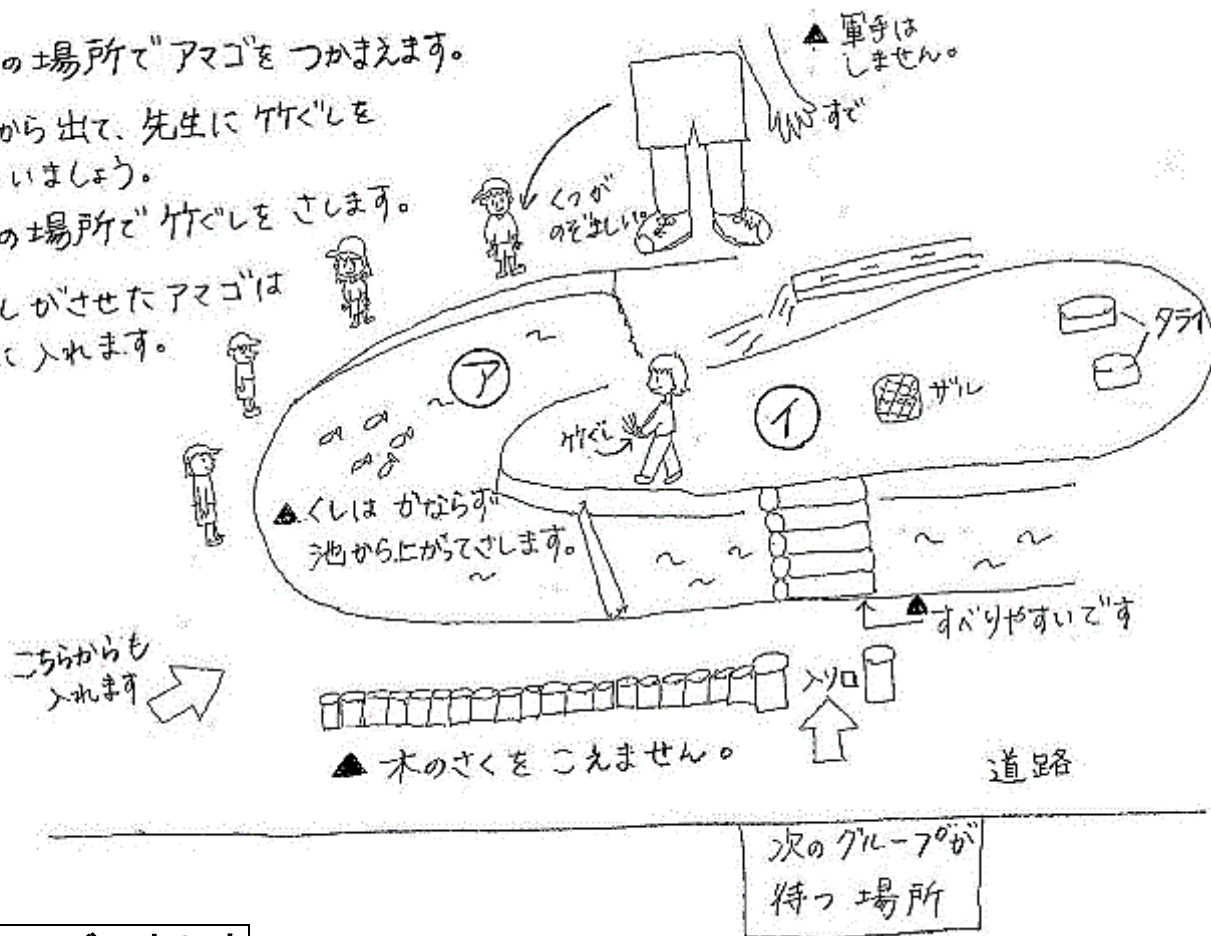
- ・小刀は番号がふってあるのでその番号の箱にしっかりと返されているか確認する。またキャップと小刀本体の番号があっているかも確認する。
- ・外で削った場合は、削りかすはそのままでよい。プレイルームで削った場合は、削りかすをプレイルームわきのゴミ箱に捨てる。

3. 安全対策について

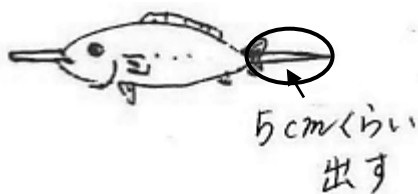
--

命の学習～アマゴつかみ～

1. ㊦の場所でアマゴをつかまえます。
2. 池から出て、先生に竹くしをもらいましょう。
3. ㊦の場所で竹くしをさします。
4. 竹くしがさせたアマゴはザルに入れます。



アマゴのさし方



とくに大切なこと

- ①アマゴは体温が水温と同じです。水温が上がると弱るので早めにつかまえましょう。
- ②アマゴは体をまもるためにぬるぬるしていますが、手ぶくろをせずにつかまえましょう。
- ③くしをさすときは、口から入れて、背骨にそって尾びれから5cmぐらいだすようにしましょう。こう門から出たときはくしからぬいてもう一度さし直しましょう。

1. 学習内容

めざすもの（評価）	関連教科	学び（単元）
・あまごの骨や筋肉のつくりと働きについて理解することができる。 ・あまごの生態について関心を持ち、雌雄があること、生命の連続性について理解することができる。	理科	4年「動物のからだのつくりと運動」 5年「動物のたん生」
・生命の尊さを知り、生命あるものを大切に にする。 ・自然のすばらしさや不思議さを感じ取り 自然や動植物を大切に する。	道徳	「生命の尊さ」 「自然愛護」
・山の恵みが川に流れ、その川が海へ、そ して全世界につながっている。そのつな がりを調査、報告、発信することができる。	総合的な学習	「環境」

2. ポイント

ア) 活動前

- ・必ず「命」について事前または当日に学習する。
- ・アマゴは素手で捕える。軍手は必要ない。
- ・瀬の音ではかかとのある靴を履くよう事前に指導する。
- ・天候に関わらず実施可能。雨天時はタライで行うことができる（直径60cmのタライ15個準備可能）。

イ) 活動中

- ・指導者は中州でクラス分の串を持ち、指導する。指導者の合図で瀬の音の水の中に入る。捕まえる時間は10分（目安）。捕まえられない場合はアマゴをタライに移動してつかませる。
- ・アマゴを1匹捕まえたら、すぐに池から出るよう指導する。
- ・指導者はアマゴを捕まえた子どもに串を渡し、ザルの近くで刺すように指導する。
※池の中で串を刺すことは非常に危険。串の扱いについて指導する。
- ・串を刺したアマゴはザルに入れる。背骨に沿って、尾びれから出ているか確認する。

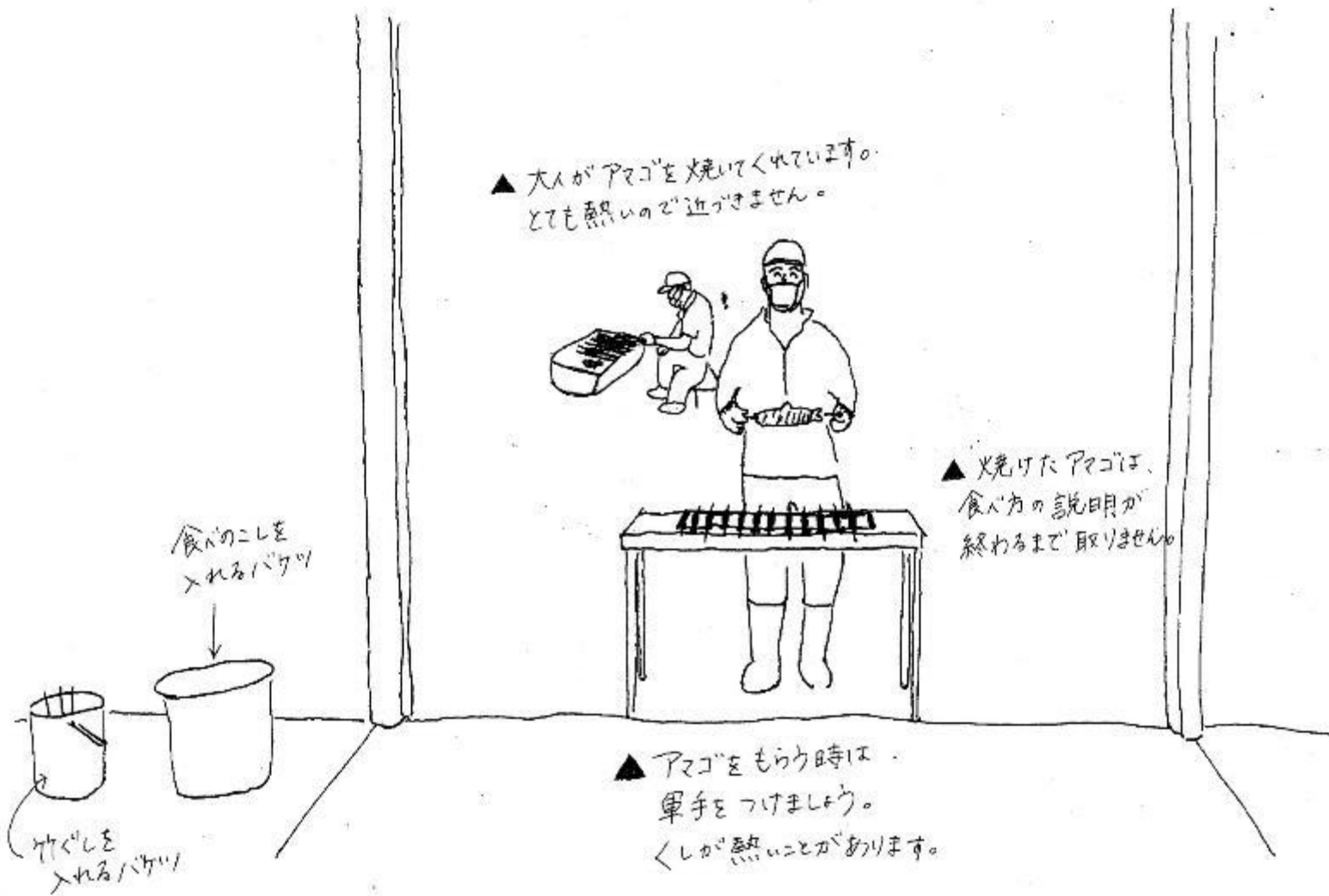
ウ) 活動後

- ・足がふやけているので早めに乾いたくつに履き替えるよう指導する。
- ・アマゴの焼き上がりには40～60分程度かかる。焼き上がりを待つ時間の活動も検討する。
- ・アマゴを焼く担当の指導者（45匹程度に対し1人）決めておく。
- ・アマゴが完全に焼けたか所員のチェックを受ける。

3. 安全対策について

--

命の学習～食べ方～



とくに大切なこと

- ①大切な命をいただきます。おいしくいただきましょう。
- ②竹ぐしの先はとがっています。すわって食べるようにしましょう。
- ③食べ終わったらバケツに竹ぐしを入れましょう。

1. 学習内容

めざすもの（評価）	関連教科	学び（単元）
<ul style="list-style-type: none">・生命の尊さを知り、生命のあるものを大切にすること。・自然のすばらしさや不思議さを感じ取り自然や動植物を大切にすること。・より良く生きようとする人間の強さや気高さを感じ、人間として生きる喜びを感じる。	道徳	「生命の尊さ」 「自然愛護」 「より良く生きる喜び」

2. ポイント

ア) 活動前

- ・ほとんどはオスだが、まれにメスがいて卵を持っている場合がある。食物アレルギーの有無を確認すること。
- ・アマゴが焼き上がるのに40～60分程度かかる。

イ) 活動中

- ・アマゴを受け取る際は竹串が熱い場合があるため、軍手を着用させる。
- ・丁寧に焼いているので頭や骨も食べられるが、無理には食べさせていない（喉に骨が刺さることがあるので、よく噛むよう注意喚起する）。
- ・竹串がとがっているため、座って食べさせる。
- ・竹串や食べ残しは決められたバケツに入れる。
- ・アマゴは班長や係の代表が班員の分を取りに来るようにするとスムーズに行える。

ウ) 活動後

- ・実習棟などに長いすを出した場合は元の位置に戻すこと。
- ・串と食べ残しは分別し、それぞれのバケツに入れる。

3. 安全対策に

--